

中経論壇

経営支援NPOクラブ
川上 博史



世の中には、「あの人は運を引き寄せるのが上手だ」とか「せっかく、目の前に幸運が迫っているのに、あの人はいつもつかみそこねる」など、運の良さ悪さを宿命論的なものとして捉え、時には自嘲的に、半ばあきらめ顔で談笑している光景がよく見られる。

世間一般に言われる「運がいい人、悪い人」には、性格的特性や日頃の行動パターンに違いがあるのだろうか、

疑問に思っていたところに偶然出会ったのが、スタンフォード大学のジョン・クランボルト教授によって提唱された「計画された偶発性理論」である。それは、社会的成功を収めた数百人のビジネスマンについて、同教授がそのキャリアを分析する中で、約8割の人が「自分の現在のキャリアは予期しない偶然によるものだ」と答えている事実から導き出したものである。

この「計画された偶発性理論」では、予期しない出来事や偶然の出会いを主体的に受け入れ、最大限に活用したほうが、良きキャリアを手に入

成功者に共通する五つの特性

れる可能性が高いこととを指摘し、20世紀末の従来のキャリア形成理論に一石を投じ、耳目を集めたというのである。さらに、そうした社会的成功を収めた人々に共通する特性として、次の五つを挙げ、人々が自分自身のキャリアをステップアップさせるための行動指針とすることを提唱した。

- ① 好奇心(何でもとりあえず興味をもつて取り組んでみる)
- ② 持続性(ちよつとぐらい失敗しても、めげずにチャレンジを続ける)
- ③ 楽観性(何事も「必ずうまくいく」ことができるはずとボ
- ④ 柔軟性(自分の考え方に凝り固まらずに、その時その場で対応を変える)
- ⑤ 冒険心(結果が不確実でも、多少のリスクは承知で行動してみる)

これら五つの行動指針は、「何事にもプラス志向で取り組もう」という前向きな姿勢を示すものであり、日頃、さまざまな人と接触し、元氣はつらつと活動している方々を見ると、共通してこれらのフ

アクターが備わっているような気がする。
先般開催された全英女子オープンゴルフで、日本人として42年ぶりに海外メジャー制覇という快挙を成し遂げた、波野日向子さんの屈託のないプレーを見て、偶然手に入れたチャンスや出会い、そして予期せぬ出来事を自分のものにした典型例のように思えた。何事にも動じない彼女の満面の笑顔が、まさかの幸運を引き寄せ、「計画された偶発性理論」を立証して見せたのである。

運を引き寄せる人は、どんな人

「計画された偶発性理論」を立証して見せたのである。